副詞「ただ」の使用条件
中国語母語学習者による作文コーパスの事例に基づいて

阿部二郎

要旨

日本語学習者による副詞「ただ」の不自然な使用を訂正しようとすると使用条件が明らかでない場合がある。本研究では中国語を母語とする日本語学習者の作文コーパス（LARP at SCU）に見られる「ただ」の使用に基づき、その使用条件（制限）を記述した。主な使用条件（制限）は、①名詞修飾できない、②「たった」の意で使えない、③「ただ$_2$」用法のとき「だけ」を伴わない、④限定の意では「だけ」等の限定表現との呼応が必要となる、である。特に④に関して、学習者は限定の意味で「ただ」を用いようとする傾向が見られるが、「ただ」自体は限定の意味を表さず、「ただ」と共起する限定表現がそれを担っているため、「ただ」を単体で用いた結果不自然な表現になることが多い。

キーワード

「ただ」、限定、日本語学習者、作文コーパス、LARP at SCU

Abstract

The conditions for the use of the adverb *tada* (purely) are sometimes unclear. For this reason, Japanese language teachers may lack certainty as to how they should correct the unnatural use of *tada* by Japanese language learners. This study used a corpus of compositions by Japanese language learners in Taiwan (LARP at SCU) to describe the conditions for the use of *tada*. Four primary usage conditions (restrictions) for *tada* were identified: (1) *tada* cannot be used to modify nouns; (2) *tada* cannot be used in the sense of *tatta* (mere); (3) *tada*$_2$ does not co-occur with *dake* (only), and (4) in contexts that imply limitation, *tada* needs to be used with a limiting expression such as *dake*. We found, in considering usage condition (4), that the use of *tada* by itself to communicate a sense of limitation is a common mistake made by Japanese language learners and often results in unnatural expressions, since *tada* does not, in itself, have a limiting meaning.

Key words

tada, limitation, Japanese language learners, corpus of essays, LARP at SCU

Conditions for the Use of the Adverb *tada*
A Case Study of a Corpus of Essays Written by Chinese-Speaking Japanese Language Learners

Jiro Abe

1 はじめに

日本語において限定を表現する際はとりたて詞「だけ」などが典型的に用いられるが、これと類似したものとして副詞「ただ」がある。

（1） 旅行にも行かず毎日仕事だけしている。
（2） 旅行にも行かず毎日ただ仕事している。

ただし、「ただ」は「だけ」よりも統語的分布が狭い。たとえば、「だけ」は名詞に直接付加できるが、「ただ」はできない。このことを認識していない日本語学習者には次のような誤用が見られる。

（3） その先生はただ英語の授業ではなく、いろいろな事を教えてくれました。 （C1820050[注1]）
cf. その先生は英語（の授業）だけではなく、いろいろな事を教えてくれました。 （意図していると思われる日本語文）

また、「ただ」と「だけ」は同じ文脈で使用されることが多いが、意味的に全く等しいわけではない。日本語学習者によっては次のように「ただ」を「だけ」と同じように用いることがあり、不自然な表現となるケースが見られる。

（4） だからおばさんは今でも仕事はない。ただおじさん一人で働いて、お金を稼ぐ。 （中国人学習者による作文）
cf. だからおばさんは今でも仕事はない。おじさん一人だけで働いて、お金を稼ぐ。 （意図していると思われる日本語文）

（4）の「ただおじさん一人で働いて、お金を稼ぐ。」という文は、（3）とは異なって「ただ」の置かれた統語的位置には問題なく、文単体で見ればある程度許容できる。しかし、（4）の意図する「おばさんは働かず、おじさんだけが働く」という文脈では「ただ」を用いるのが不適切に感じられる。

また、（4）と同じ文脈であっても次のように「だけ」等が現れている場合は「ただ」と共起させて用いることも可能である。

（5） だからおばさんは今でも仕事はない。ただおじさん一人だけで働いて、お金を稼ぐ。

しかし、「ただ」は「だけ」等と呼応させることが常に必須というわけではなく、先に述べた（4）と異なる文脈上や冒頭の（2）のように、「ただ」単独で用いることができる場合もある。では、（4）において「ただ」が単独で使用できないのはなぜであろうか。

以上のように、日本語学習者による「ただ」の不自然な使用が散見される中で、それを訂正しようとすると使用条件が明らかでない場合がある。「ただ」の意味・機能に関する研究や他の形式との比較の中で部分的な使用条件に言及したものはあるが、「ただ」の使用条件を網羅した研究は見られない。そこで、本研究では日本語学習者による「ただ」の使用を観察し、その使用条件を記述することを目的とする。

2 調査

2.1 データ

本研究では作文コーパス『LARP at SCU Ver.2』（以下「LARP」）を用い、中国語を母語とする日本語学習者の「ただ」の使用実態を調査する[注2]。LARPは第二言語習得研究を目的とし、台湾の東呉大学において中国語を母語とする日本語学習者による作文を集積したものである。

本コーパスは学習者による作文（初稿）と、対話的フィードバックを経て学習者が自ら訂正したもの（修正稿）が収録されている。調査は初稿を対象として行った。調査では全ての作文初稿から文字列「ただ」の含まれるもの176件を抽出し、目視でノイズを取り除いた。ここでノイズとしているのは以下のよ

うなものである。

a. 偶然「ただ」という音連続になっているもの（「無料」の意の「ただ」も含む）。
（6）寒かっただけだ。 (J1804180)

b. 接続詞の「ただ（し）」として使われているもの。
（7）授業があるとき以外、私は部屋に自分のしたい事をします。音楽を聴くことと勉強をすることと読書と寝ることなど。ただ、食べ物を食べることだけは絶対駄目です。 (C0608030)

2.2 調査結果

調査の結果、副詞「ただ」と判定されたケースは148件であった。以下では、その中から訂正を要すると判断されたものを分類していく。なお、学習者の作文の下には「cf.」として学習者が意図していると思われる文に直したものを添える[注3]。

（a）名詞に「ただ」を付加しているケース
（8）ある人はコーヒーを飲むのは上品らしくではなく、ただ自分の習慣である。 (J2121290)
cf. 人によってはコーヒーを飲むのは格好つけているのではなく、ただの習慣である。

（b）名詞以外に「ただの」を付加しているケース
（9）元々政治に興味がなくて、好きな政党もなくて、不関心だといえないが、ただの興味ないのだ。(J1708190)
cf. 元々政治に興味がなくて、好きな政党もなくて、無関心とも言えず、ただ興味がないのだ。

（c）「たった」を用いるべきケース[注4]
（10）今の日本生活はただ一か月くらい残って、ちゃんと時間を利用しなければならないと思う。 (J1804200)
cf. 今の日本での生活はたった一ヶ月くらいしか残っていないので、ちゃんと時間を利用しなければならないと思う。

（d）「ただ」に「だけ」を付加すると不自然になるケース[注5]
（11）高くて空気もいいし、眺めもきれいし、初めてこのような所にいるのだ。ただ寒かっただけだ。そのときだいたい二度くらいだった。 (J1804180)
cf. 高くて空気もいいし、眺めもきれいだし、初めてこのような所にいるのだ。ただただ寒かった。そのときはだいたい二度くらいだった。

（e）「だけ」等の限定表現との呼応を要求するケース
（12）政府側は野良犬に対するいい政策があまり作ってないで、ただ野良犬をつかまえてどこかに集まる。(J230430)
cf. 政府は野良犬に対するいい政策をあまり立てておらず、ただ野良犬を捕まえてどこかに集めるだけだ。

以上、タイプごとに5つの事例分類を行った。以下では、上記の事例に基づいて「ただ」の使用条件や制約について考察していく。

3 事例から見た「ただ」の使用条件

①名詞を「ただ」で限定することはできない

（a）に見たように、「ただ」は名詞述語文に用いることはできない（呉2019）[注6]。つまり、基本的には名詞の前では「ただ」ではなく「ただの」を用い、逆に（b）のように名詞以外の前では「ただ」を用いるということになる。ただし、このような表面的な語列による説明だけでは問題となる次のような事例がある。

（13）ただの売り上げで本の価値を決定するのは、本を書きの人には失礼で

す。 (J0430040)

cf. ただ売り上げだけで本の価値を決定するのは、本を書く人に失礼です。

「ただの」は被修飾名詞が「基本属性以外、何の特異な性質も持っていない」(呉2019: 27) ときに用いるものである。(13) は「売り上げ」とそれ以外 (「内容の品質」など) からなる前提集合から「売り上げ」を限定する解釈であり、「ただの」との意味的整合性がないため不自然となる。したがって、この場合は名詞を「だけ」で限定する必要がある。

つまり、「ただ…だけ」の形で限定を示すことからの類推により、名詞を限定する目的で「ただの」を用いないように留意する必要がある。

②「極めて少ない」という意味のときには「たった」を用いる

数に付加し、「極めて少ない」という意味を表す場合は原則として「たった」を用いるのが適切であるが、次のように「ただ」を用いても自然になる場合があることに注意が必要である。

(14) 七才のデニっという男の子は誕生日前に神様に一つの願いをしていました。それはただ一人でもいい、友達が欲しかったです。(J1224140)

cf. 七才のデニーという男の子は誕生日の前に神様に一つの願い事をしていました。それはただ一人でもいい、友達が欲しいということでした。

(14) の「ただ」は人数を限定する意味 (「一人だけ」に相当) で用いられている[注7]。「極めて少ない」という程度評価は限定の意味と親和性が高く、「たった+数」と「ただ+数」は混同される可能性が高い。しかし、「たった」は「たった100円」「たった15mℓ」と単位的な数量に対して用いることができるのに対し、「ただ」は「ただ100円」「ただ15mℓ」とは言えず、「ただ二つ」「ただ一度」のように個体数や出来事の回数等を表す場合のみ自然となる。

③「ただ$_2$」は「だけ」と共起しない

(d) のケースに用いられているのは副詞「ただ」の異なるもう一つの用法である。呉 (2019) は「ただ」に二つの用法を認め、「ただ仲がいいだけだ」のような「他の特異な属性の不在」を示すものを「ただ$_1$」、「ただ美しい」のような「属性の純粋さの強調」を示すものを「ただ$_2$」と呼んでいる。呉 (2019) によれば「ただ$_2$」は複数回スキャニング探索を表す「ただただ」に代替できる。(11) も「ただただ」に代替可能であることから「ただ$_2$」に相当することが分かる。

(11再掲) 高くて空気もいいし、眺めもきれいし、初めてこのような所にいるのだ。ただ寒かっただけだ。そのときだいたい二度くらいだった。 (J1804180)

cf. 高くて空気もいいし、眺めもきれいだし、初めてこのような所にいるのだ。ただただ寒かった。そのときはだいたい二度くらいだった。

また、形容詞述語文を「ただ$_1$」で解釈したいときは「だけ」を要求する (呉2019: 29–30)。たとえば、「ただ (ただ) 美しい」は「ただ$_2$」であるが、「だけ」を付加し「ただ美しいだけだ」とすると「ただ$_1$」の解釈となる。(11) は「ただ$_2$」でしか解釈できない (「ただただ」に置き換えられる) 文脈でありながら「だけ」を伴っているため不自然となっている。

④他と明確に対比したり限定したりする際に「ただ」は「だけ」等の限定表現との呼応が必要となる

副詞「ただ」は限定や排他を表すと記述されることがある。しかし一方で、「ただ」を「だけ」と置き換えることができないことも指摘されている (安部2003)。日本語学習者の使用を見て言えるのは、文脈上「自者」と「他者」がはっきりしていて限定を問題とするようなときに「ただ」がまったくの単体で用いられると不自然になるということである。そしてその場合は、「だけ」等を補うと (あるいは「ただ」を削除して「だけ」を付加すると) 自然になる。この点については節を改めて詳細に考察したい。

以上、日本語学習者による「ただ」の使用例に基づき、「ただ」の使用条件

を記述した。以下では④についてさらに詳細な考察を行う。

4「だけ」と共起する「ただ」と単体の「ただ」

「ただ」は「だけ」等と共起することが多いとされる（相澤・佐藤2008, 呉2019）。しかし、それは両者の共起が全くの任意という条件下で見られる傾向であるのか、必然的なものであるのかについては述べられていない。（e）にも見たように「ただ」の単体使用が不自然となり、「だけ」との共起を要するケースが存在することは、少なくともその傾向の一部が必然的なものであることを示唆する。

安部（2003）は「だけ」を「ただ」に置き換えると不自然になる次のような例を挙げている。

（15）「ところであなたはこれからどうするんですか？」「脚もくじいておるし、今外に出たところで「組織」や記号士に追いかけられるだけだ。しばらくここに隠れておるですよ。」

（16）?「ところであなたはこれからどうするんですか？」「脚もくじいておるし、今外に出たところでタダ「組織」や記号士に追いかけられる。しばらくここに隠れておるですよ。」（安部2003: 67）

（15）は「だけ」によって「脚をくじくという悪条件のもとで外に出た際に起こり得るできごと」という前提集合の中で〈「組織」や記号士に追いかけられる〉が限定されている。一方で、「ただ」を用いた（16）ではそのような解釈が難しい。ここから、安部（2003）は「ただ」は「だけ」に比べ「排他性」が弱いと主張する。

安部（2003）の提示する現象は興味深いが、結論としては「ただ」が「だけ」に比べ排他性が弱いという相対的な論にとどまる。しかし、安部（2003）の指摘する通り「ただ」単体では「ある前提集合のもとでの限定」という解釈を持ち得ないのであれば、「ただ」自体はとりたて詞が示すような意味での限定を表す働きは持たないと考えるのが妥当ではないか[注8]。そのように仮定すると、限定や対比のように前提集合を想起する必要のある文脈では「ただ」が「だけ」等の限定表現とともに用いることが必須となる現象が説明できる。

「ただ」単体では限定を表し得ないとすると、「ただ」が単体で用いられるのはどのような場合であろうか。それは、③で見たように「ただ$_2$」が用いられる時が多いと考えられる。

（17）その絵はただ美しい。（ただ$_2$）

（18）その絵はただ美しいだけだ。（ただ$_1$）

先にも見た通り、形容詞述語文は単体では「ただ$_2$」の解釈となるため、「だけ」を付加することで「ただ$_1$」の解釈となる。一方、動詞述語文については「ただ」単体で「ただ$_1$」も「ただ$_2$」も表し得ると呉（2019）は説明する。しかし、実際には以下のように動詞述語文において「ただ」単体で「ただ$_1$」を表すことは不可能であることが多い。

（19）「これには憧憬するみたいなもの、たとえば行くさきはどことときまっていないわね。ただ出て行くだけね。」（石川淳『焼跡のイエス／処女懐胎』）

（20）?「これには憧憬するみたいなもの、たとえば行くさきはどことときまっていないわね。ただ出て行くね。」

呉（2019）は動詞述語文において「ただ」単体で「ただ$_1$」を表しているものとして次の例を挙げている。

（21）私は、多少イライラしながらも催促する勇気もなく、ただ店の様子を眺めていた。（呉2019: 26）

（21）では確かに「ただ」が単体で現れているが、これは「ただ$_1$」の例としては適切ではない。この「ただ」は次のように「ただただ」「ただひたすら」等に置き換えることができることから「ただ$_2$」としての解釈が可能であり、それゆえに「ただ」単体での使用が可能となっていると思われる[注9]。

（22）私は、多少イライラしながらも催促する勇気もなく、ただただ／ただひたすら店の様子を眺めていた。

一方、（19）は「ただ」を次のように「ただただ」「ただひたすら」等に置き換えることができない。

（23）?「これには憧憬するみたいなもの、たとえば行くさきはどことときまっていないわね。ただただ／ただひたすら出て行くね。」

（2）が「ただ」単体で可能なのも、この文が次のように「ただただ」「ただひたすら」の意で解釈可能だからであると考えられる[注10]。

（2） 旅行にも行かず毎日ただ仕事している。
（24）旅行にも行かず毎日ただただ／ただひたすら仕事している。

（2）は「旅行にも行かず」という文脈があるものの、「ただ」自体は前提集合を想起させず、限定マーカーとしては機能していない。単体の「ただ」が前提集合を想起させないことは次の例からも検証できる。

（25）先週沖縄へ行って、海を見た。
（26）先週沖縄へ行って、ただ海を見た。
（27）先週沖縄へ行ったのに、海を見ただけだった。
（28）?先週沖縄へ行ったのに、海を見た。
（29）?先週沖縄へ行ったのに、ただ海を見た。

（26）は「ただひたすら海を見た」という解釈であり、「海を見る以外のことをしなかった」という意味を積極的に表してはいない。その根拠となるのが（27）以降である。「のに」は何らかの期待が存在し、それが果たされなかったことが後件で表される。「のに」の後件に「だけ」などが現れると、期待の内容が「だけ」の前提集合に含まれる解釈となることが多い。（27）は「だけ」によって「のに」の期待（海を見る以外の様々なこと）が果たされなかったことを表している。（28）は「だけ」がないため、文脈のどこかで期待の内容が明らかにされていない限り不自然となる。（29）は「ただ海を見た」が前提集合を想起させないため、（28）と同様不自然になる。

なお、「ただ$_2$」以外でも次のように「ただ」が単体で用いられるケースがある。

（30）ただお湯をかければ食べられる。　（相澤・佐藤2008による例）

この場合の「ただ」は「ただただ」「ただひたすら」の意味ではなく、なぜ「ただ」を単体で用いることができるのか、詳細なメカニズムは現時点では分からない。ただし、「ば」条件節では可能であるのに対し、次のように「て」節では「だけ」を必要とすることから、「ば」の持つ何らかの意味が「ただ」を認可していると考えられる。

（31）?ただお湯をかけて食べられる。
（32）お湯をかけるだけで食べられる。

この点は現象の指摘にとどめ、今後の課題としたい。

ここまでの考察から言えるのは、限定を表す際「ただ」の視点で見れば「だけ」は必須要素であるが、「だけ」等から見れば、「ただ」の出現は任意であり、少なくとも構文上「ただ」が何らかの役割を果たしているようには見えないということである。以下はグループ・ジャマシイ（1998）の「だけ」の項目例から本稿で挙げた「ただ」の使用条件に合致するものを抜粋し、「（ただ）」を添えたものである（グループ・ジャマシイ 1998: 189、下線は筆者）。

（33）品物なんかいりません。（ただ）お気持ちだけいただきます。
（34）（ただ）コピーを取るだけの簡単な仕事です。
（35）ここは（ただ）便利なだけで環境はあまりよくない。
（36）たいした怪我ではありません。（ただ）ちょっと指を切っただけです。

このように、基本的に限定の「だけ」が現れるところには「ただ」の出現が任意となっている。では、「ただ…だけ」（呉（2019）の「ただ$_1$」）における「ただ」の意味はどのようなものであろうか。

相澤・佐藤（2008）は「ただ」形式が統一的に持つ意味を考察する中で、副詞「ただ」の特徴を次のように記述している。

（37）副詞的用法の特徴
形式：Aが　ただ　X（述語句）
意味：Aの行う動作もしくはAの状態は、Xの字句通りの意味であり、Xに関して特別な意味的要因は関与していない。
（相澤・佐藤2008: 61）

この「Xに関して特別な意味的要因は関与していない」というのが「ただ…だけ」における「ただ」を考察する際に大きな手掛かりとなりそうである。すなわち「ただ」の働きは「他と関与しないことは示すが、それがどんな他であるかは想起しない」というものになると考えられる。この点は予測にとどまり、現時点で具体的な例を用いて実証できてはいないため、詳細については今後の課題としたい。

5 まとめ

本研究では中国人日本語学習者の作文コーパス（LARP）に見られる「ただ」の使用に基づき、その使用条件（制限）を記述した。各条件は以下のとおりである。

①名詞を「ただ」で限定することはできない
②「極めて少ない」という意味のときには「たった」を用いる
③「ただ$_2$」は「だけ」と共起しない
④他と明確に対比したり限定したりする際に「ただ」は「だけ」等の限定表現との呼応が必要となる

また、④についてなぜ限定の時に「ただ」が「だけ」等との呼応を要するのかを考察し、以下の結論を得た。

1)「ただ」単体ではとりたて詞のような前提集合を想起した上での限定を表す機能を担わない。
2）1）より、限定が問題になるような文脈で「ただ」を単体で用いることはできず、「ただ…だけ」のように限定を表す要素と共起する必要がある。
3)「ただ」が単体で用いられるのは主に「ただ$_2$」の用法のときである。

日本語学習者が「ただ」を単体で用いているとき、母語話者の内省では若干の違和感はあるものの誤用とまでは言えないものが散見される。本研究の結論からその理由を考えると、限定を示す文脈なので本来は「ただ…だけ」といった呼応が必要（もしくは「だけ」等の限定表現のみを用いるべき）なのであるが、「単に」のような解釈や「ただ$_2$」としての解釈も全く不可能というわけではないため、「若干の違和感」にとどまっている場合があるということになる。

〈北海道教育大学〉

注
［注1］…… 文例末尾括弧内の英数字は後述するコーパス「LARP at SCU Ver.2」の作文IDを示している。以下同様。
［注2］…… LARP at SCUはLanguage Acquisition Research Project at Soo-Chow Universityの略。
［注3］…… 学習者の意図を推測するにあたっては対話的フィードバックや修正稿の内容を参考にした。
［注4］…… 調査に用いたのが中国語話者の作文コーパスであるため、この種の誤用は「ただ」と「たった」の音韻上の混同が原因となっている可能性もある（査読者からのご指摘）。ただし、（10）のケースに関しては、対話的フィードバック（J1804201）を参照したところ「ただ」と「たった」の音韻的違いを学習者が当初から認識していたと判断されるものであった。
［注5］…… （11）の「ただ」が意図しているものとして「ただただ」（ただ$_2$）の他に、「もし問題があるとすれば、それは「寒かった」ということだけだ」という可能性もある（査読者によるご指摘）。その場合も当該箇所に「ただ…だけだ」

を用いるのは不自然となる。もし学習者の母語において（11）のような談話の展開時に前触れなく限定表現を用いることが可能であるのだとしたら、日本語でそれが不可能であることは興味深い。

［注6］…… 中西（2014）は「パチンコは遊びだけだ」という誤用に対し、修正例として「パチンコはただの遊びだ」を挙げている。前者のような文を生産する学習者が「ただ」を「だけ」と同一視している場合は「パチンコはただ遊びだ」という文も生産する可能性はある。ただし、「ただ＋名詞だ」が常に不自然になるのに対し、「名詞＋だけだ」は「おやつはバナナだけだ」のように自然なケースも多くあるため、「ただ＋名詞だ」が不自然になる説明に中西（2014）を援用することはできない。

［注7］……「ただ一人」と「一人だけ」は意味的に近似しているという意味で「相当」としたが、両者は「ただ一人だけ」と共起できることからも完全に等価ではない。また、「たった」と「ただ」は本文に示した違いはあるものの共起はできない。これは「たった」と「ただ」が同語源であることに起因すると思われる。

［注8］…… 安部（2004）では「タダ文」に前提集合が想定されるとしているが、そこで扱われているのは「ただ」単体の意味ではなく「ただ…だけ」のような限定表現も含めた文全体である。

［注9］……「ただ」が単体で現れているとき、「ただ$_2$」ではなく、「ただ…だけ」から「だけ」が省略されているということはあるだろうか（査読者からのご指摘）。

まず、「ただ…だけ」が名詞を限定し、「ただ＋名詞＋だけ」となっている場合は「だけ」の省略は難しいようである。

考えてみればただ念仏だけが真実なのだ…。　（山折哲雄『悪と往生』）
考えてみれば念仏だけが真実なのだ…。
?考えてみればただ念仏が真実なのだ…。

次に、「ただ」単体と動詞述語の組み合わせの場合、やはり「ただ$_2$」が多く観察されるも、中には次のような例も見つかる。

普通の男は子蓉に太刀打ちもならずただ焼き尽くされてしまう。
（酒見賢一『陋巷に在り』）

この場合は「ただただ」「ひたすら」という解釈は難しい。しかし、「ある前提集合のもとでの限定」という解釈でもないように思われる。この場合は「ただ」を除いても命題的な意味はほとんど変わらないからである。

普通の男は子蓉に太刀打ちもならずφ焼き尽くされてしまう。

なお、「ただ$_2$」が単体で用いられている場合は、「だけ」を補って「ただ…だけ」の形式にすることもできることがある。（21）も形式上「だけ」を補うことは可能であり、呉（2019）は「ただ$_1$」としている。しかし、その場合は「だけ」の有無によって命題的意味が変化するため、「だけ」が省略されているとするのは妥当でないと考えられる。

［注10］…… 呉（2019）は（21）が「ただ$_1$」である根拠として、当該要素と対比される他の要素として「催促する勇気もなく」が存在していることを挙げているが、（2）において「旅行もせず」と他の要素があっても、それとは関係なく「ただひたすら仕事している」という「ただ$_2$」の解釈が可能であるように、こうした要素は「ただ$_1$」の解釈を必然的に誘導するものではない。

参考文献

相澤奈穂子・佐藤琢三（2008）「多機能語「ただ」の分析」『日本語文法』8(1), pp.53–67.
安部朋世（2003）「とりたて性からみたタダ」『鶴林紫苑』pp.59–74.　鶴見大学短期大学部国文科国文学会、風間書房
安部朋世（2004）「単ニとタダ」『千葉大学教育学部研究紀要』52, pp.155–160.
グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
呉慶霞（2019）「排他的限定を表す副詞の意味用法をめぐって」『2019年度春季大会発表予稿集』pp.25–32.　日本語学会
中西久美子（2014）「「名詞＋だけだ」が不自然になる原因―「弟は10歳だけだ」はなぜ不自然なのか」『日本語教育』159, pp.17–29.